

# 2026年3月期決算説明会



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<https://transgenic-group.co.jp>

2026年5月13日

株式会社トランスジェニックグループ

注：当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した経営計画に基づき作成しておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。また、今後の当社の経営成績及び財政状態につきましては、市場の動向、新技術の開発及び競合他社の状況等により、大きく変動する可能性があります。

<b>I.</b>	<b>2026年3月期連結決算概要</b>	<b>・・・ 2</b>
<b>II.</b>	<b>創薬支援事業の状況</b>	<b>・・・ 6</b>
<b>III.</b>	<b>投資・コンサルティング事業の状況</b>	<b>・・・ 11</b>
<b>IV.</b>	<b>2027年3月期連結業績予想</b>	<b>・・・ 15</b>
<b>V.</b>	<b>その他</b>	<b>・・・ 17</b>



# I . 2026年3月期連結決算概要

当期連結業績は、創薬支援事業の増収、投資・コンサルティング事業の堅調な推移を受け、売上高は過去最高を更新。営業損益、経常損益は大幅に改善するも事業再編損等の特別損失により、親会社株主に帰属する当期純利益は赤字で着地。

## ➤ 創薬支援事業

前期比で19.1%の増収と事業運営合理化によるコスト削減で損益は3.2億円強の大幅な改善。

## ➤ 投資・コンサルティング事業

前期比で1.7%の減収だったが、損益は価格交渉等による粗利率改善等により9.3%の増益。

**売上高 13,174百万円** 前期比 **+169百万円**

前期	13,005百万円	+1.3%	+169百万円
創薬支援事業	2,258百万円	+19.1%	+362百万円
投資・コンサルティング事業	10,922百万円	△1.7%	△193百万円
本社・連結調整	△6百万円	- %	△0百万円

**経常利益 118百万円** 前期比 **+437百万円**

前期	△319百万円	- %	+437百万円
----	---------	-----	---------

**営業利益 137百万円** 前期比 **+397百万円**

前期	△259百万円	- %	+397百万円
創薬支援事業	△164百万円	- %	+324百万円
投資・コンサルティング事業	479百万円	+9.3%	+40百万円
本社・連結調整	△177百万円	- %	+32百万円

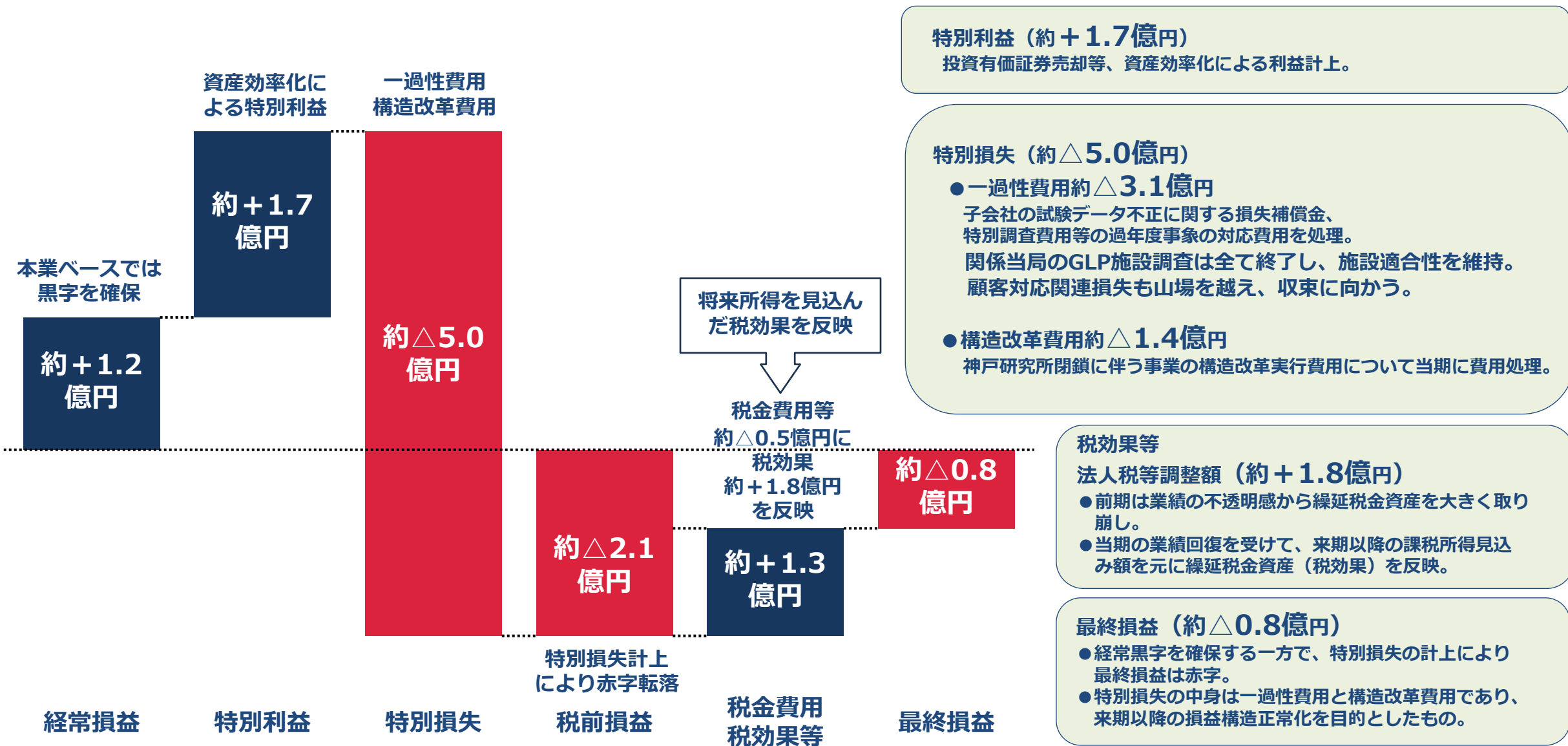
親会社株主に帰属する

**当期純利益 △77百万円** 前期比 **+1,012百万円**

前期	△1,089百万円	- %	+1,012百万円
----	-----------	-----	-----------

# 2026年3月期連結決算：経常損益から最終損益への変動要因

経常黒字を確保しつつ、一過性費用と来期以降に向けた構造改革費用を計上した結果、最終損益は赤字で着地。



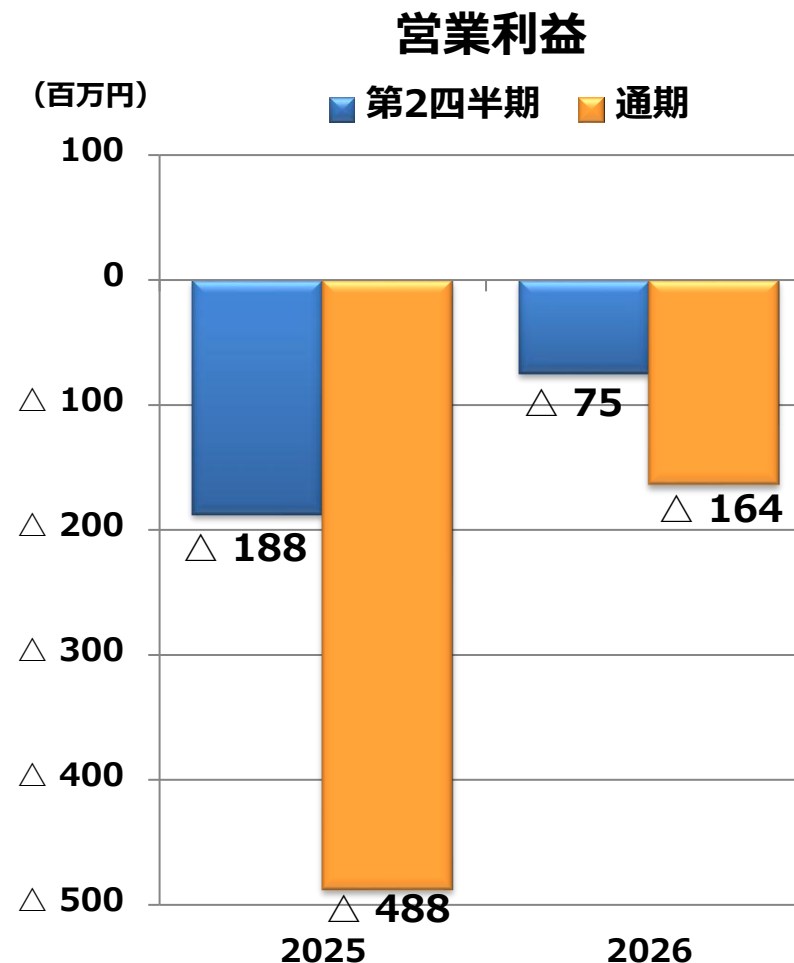
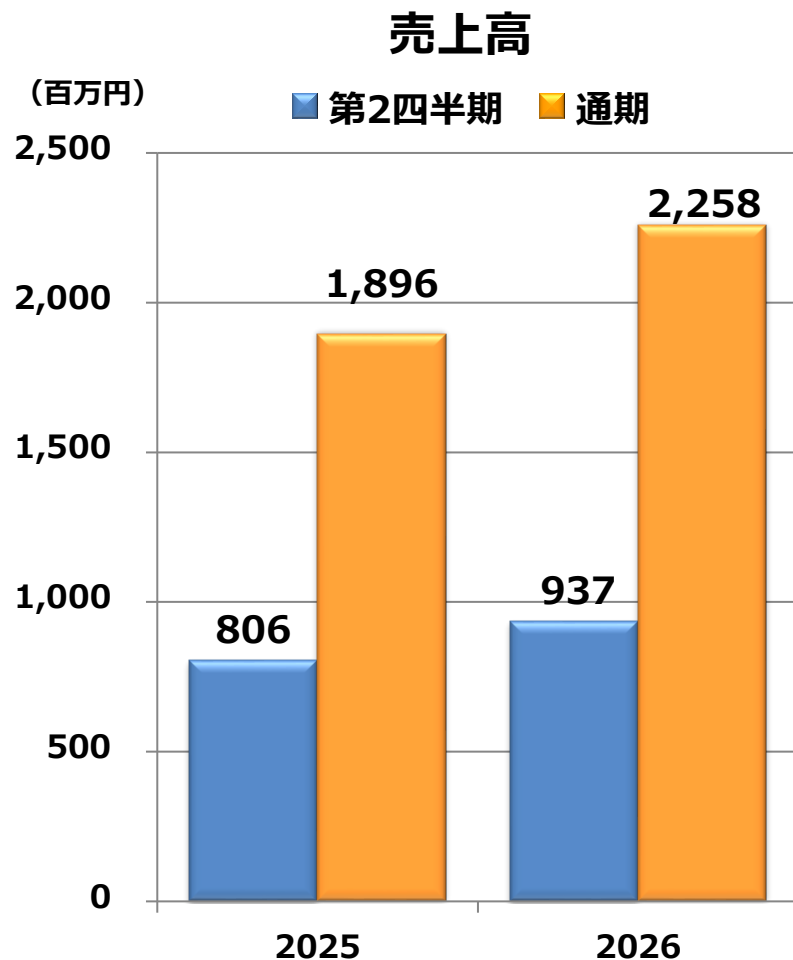
- 営業活動によるキャッシュ・フロー及び投資活動によるキャッシュ・フローはいずれもプラス。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債の返済を行ったためマイナス。

単位：百万円	2025/3	2026/3	前期比	主な内訳
営業活動による キャッシュ・フロー	94	25	△68	<ul style="list-style-type: none"> <li>●営業CF                             <ul style="list-style-type: none"> <li>税金等調整前当期純損失 △207</li> <li>商品及び製品の増加額 △250</li> <li>前受金の増加額 384</li> </ul> </li> </ul>
投資活動による キャッシュ・フロー	△287	50	338	<ul style="list-style-type: none"> <li>●投資CF</li> </ul>
財務活動による キャッシュ・フロー	265	△518	△783	<ul style="list-style-type: none"> <li>有形固定資産の取得による支出 △68</li> <li>投資有価証券の売却による収入 152</li> </ul>
現金及び現金同等物の増減額	75	△441	△517	<ul style="list-style-type: none"> <li>●財務CF                             <ul style="list-style-type: none"> <li>短期借入金の減少額 △115</li> <li>長期借入れによる収入 339</li> <li>長期借入金の返済による支出 △747</li> </ul> </li> </ul>
現金及び現金同等物期首残高	2,466	2,541	75	
現金及び現金同等物期末残高	2,541	2,100	△441	

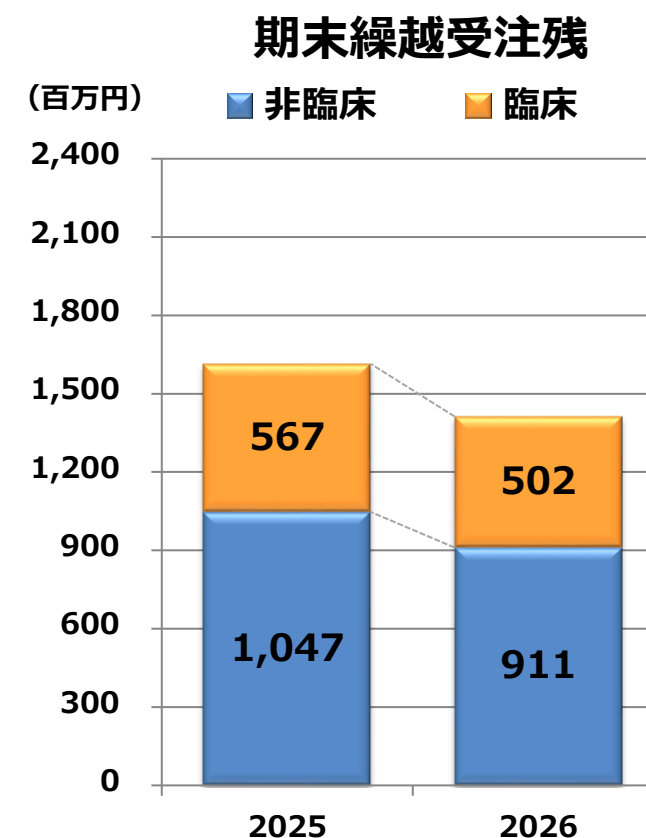
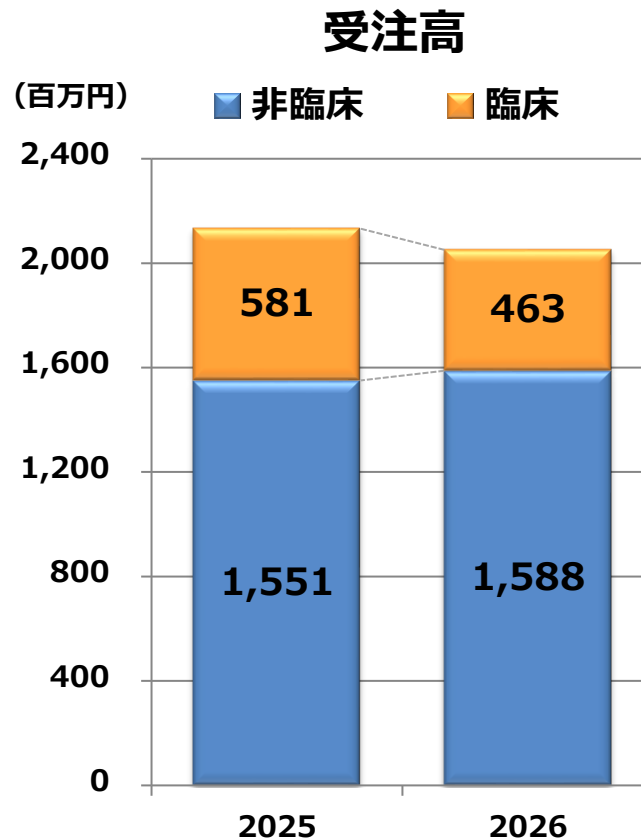
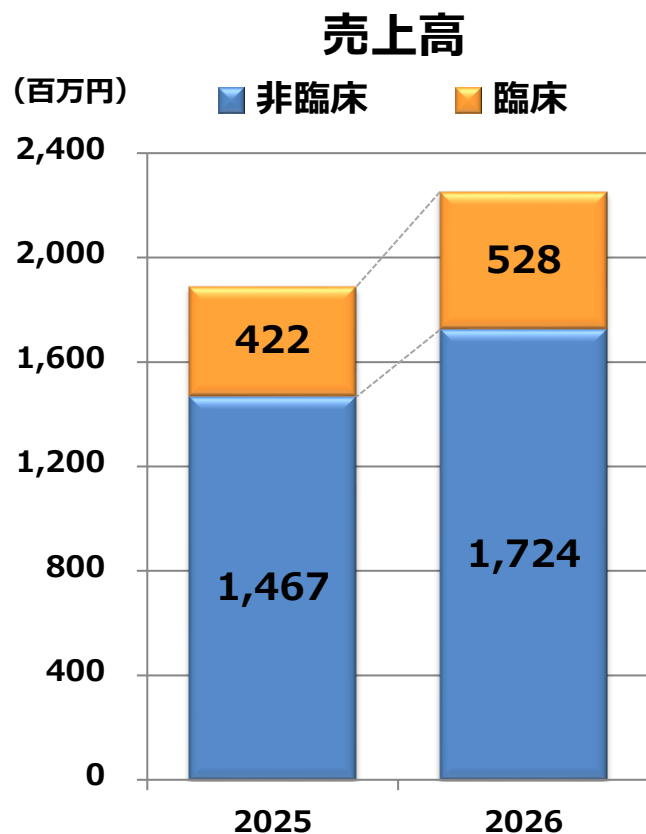


## Ⅱ. 創薬支援事業の状況

- 前期比で19.1%、約3.6億円の増収と事業運営の合理化による費用削減の結果、前期比で損益は約3.2億円強の大幅改善。
- 来期についても、神戸研究所事業の戦略的構造改革により、損益は引き続き改善の見通し。



- **非臨床事業** 豊富な期首繰越受注残と堅調な当期受注を背景に、当期売上高は前期比約2.6億円増の約17.2億円。期末繰越受注残は、神戸研究所の事業再構築を見据え一部受注を抑制したものの、約9億円を維持。
- **臨床事業** 豊富な期首繰越受注残を確実に納品し当期売上高は前期比約1億円増の約5.3億円。受注については、期首繰越案件の遂行に注力したこと等もあり前半苦戦したものの後半巻き返し、期末繰越受注残は約5億円を維持。



- トランスジェニック（以下、「TG」）の強みである遺伝子改変・ヒト化マウス技術を活かし、核酸医薬・抗体医薬・再生医療等に対応する高付加価値な非臨床評価領域を強化。
- 高付加価値領域に集中し今後3か年で創薬支援事業を売上高30億円規模へ拡大する。

## 高付加価値な非臨床評価 ニーズの拡大



### ヒト特異製剤の評価 ニーズ

核酸医薬・抗体医薬・再生医療等で評価ニーズが拡大



### サル代替を視野に 入れた評価モデル

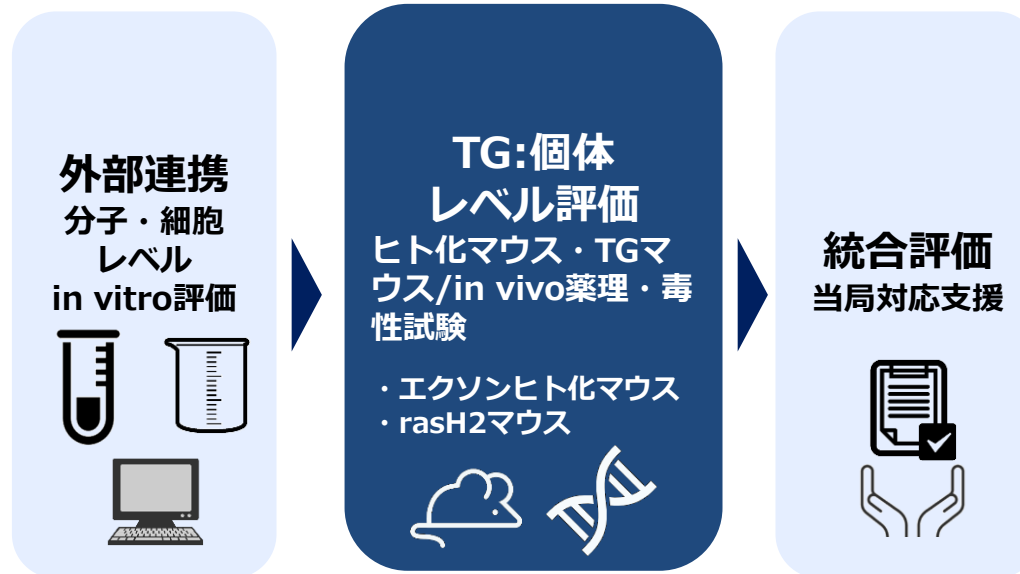
倫理・規制・コスト面から代替評価への関心が高まる



### 高付加価値な非臨床 評価

短期発がん性試験等の需要が増加

## TGを中核とした 統合型非臨床評価プラットフォーム



「分子・細胞・個体レベルの評価をつなぎ  
非臨床データの一貫性と信頼性を高める」

## 3年後の成長目標と提供価値

創薬支援事業  
今期売上  
22億円

高付加価値領域に  
集中し今後3か年で  
**30億円**規模  
を目指す

### 3つの提供価値

**科学的信頼性：**  
ヒト外挿性が高い非臨床データ

**倫理的持続性：**  
サル代替を視野に入れた評価体系

**産業的重要性：**  
次世代創薬領域の開発支援

「アセットライト化 x 既存資産の最大活用 x 成長分野への資本再配分」を実現する戦略的構造改革の実行。

### 神戸研究所における現状の構造的課題



市場環境の  
急激な悪化



ライフサイエンス市場低迷の影響を受け、ジェノミクス事業の受注規模は最盛期の**5分の1以下**にまで縮小。設備費等の固定費負担に耐え切れず赤字構図に。



保有する先端技術と  
現市場環境とのギャップ



核酸医薬開発等の非臨床試験分野でのTGマウス需要は増加傾向だが、既存モデルの活用が大半を占め、ジェノミクス事業の**受注には直結しない**状況。



不効率な資産保有  
ROEの低迷



同拠点で営む「大動物薬理事業」単体は黒字だが、ジェノミクス事業の受注縮小の中、設備維持費が重荷となり、拠点全体では**赤字、全社ROE低迷**の要因に。

### ジェノミクス事業のアセットライト化



- 非臨床事業の高付加価値・差別化サービスに不可欠な技術基盤を維持しつつ市場変化に対応しリサイズ。
- 神戸ポートアイランド内の高機能レンタルラボを活用し固定費構造を抜本的に変動費化する**アセットライト型**への転換。

### 大動物薬理事業の磐田統合



- 拠点分散を起因とする設備維持費の重荷から脱却し、黒字事業の収益力を最大化。
- 既に充実した設備を有する磐田研究所へ事業と人員を統合。追加投資を伴わない移管により、磐田研究所の**売上・利益拡大の起爆剤**とする。

### 神戸研究所資産の売却と資本再配分



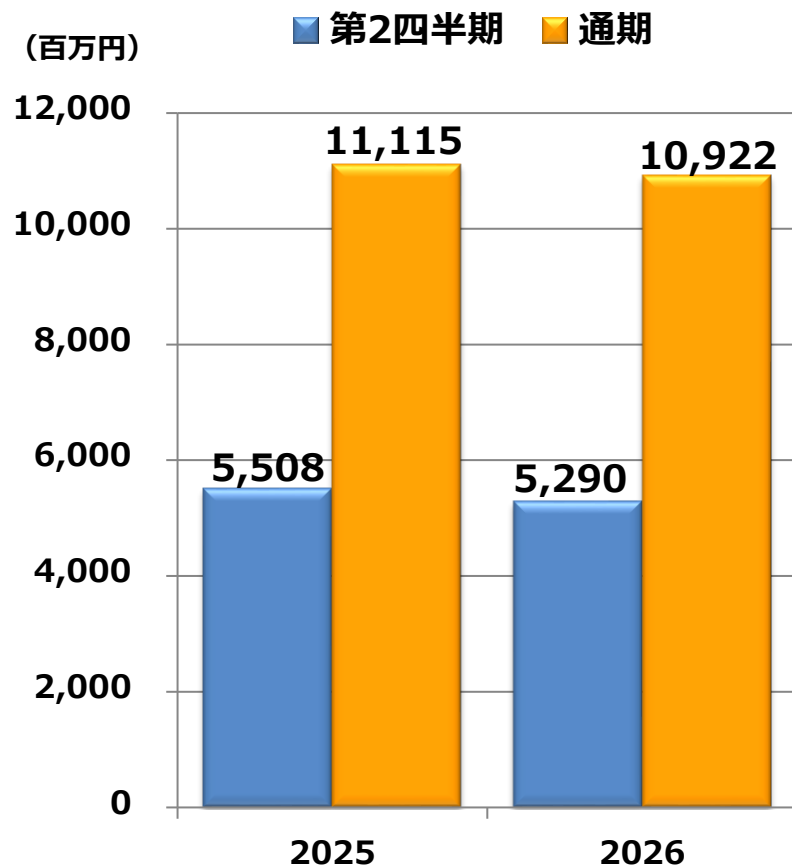
- 経営資源を「資産の保有」から「成長への投資」へと大きくシフト。
- 好立地にある神戸研究所不動産については、事業再編後に速やかに売却。創出資金を成長分野へ再投資し、全社的な**ROEの劇的改善**を図る。



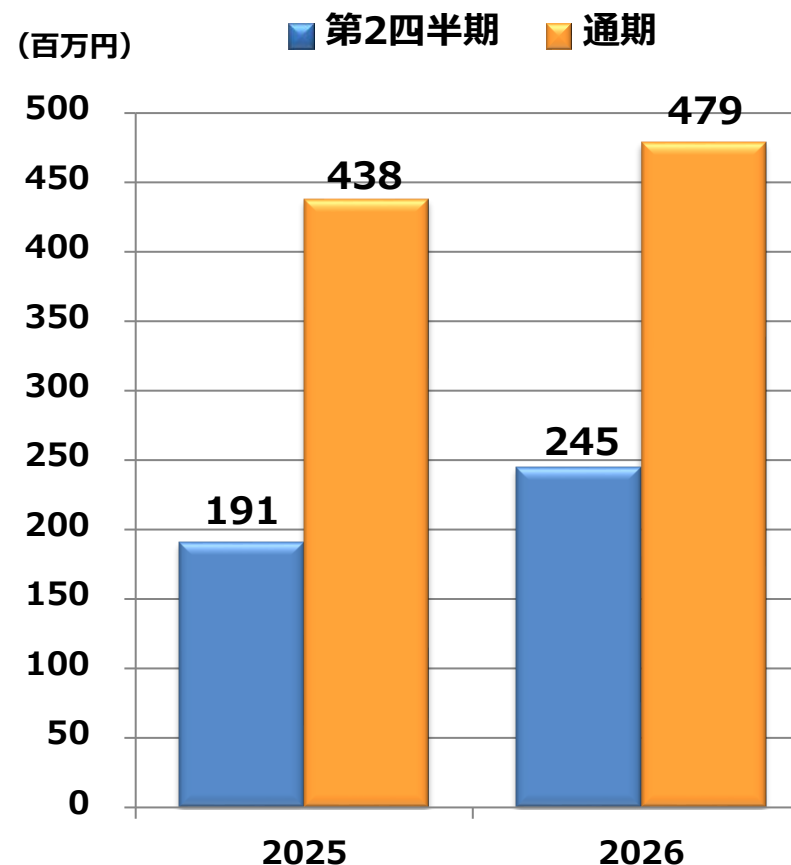
## Ⅲ. 投資・コンサルティング事業の状況

- 消費マインドの低下によりEコマース、商社事業ともに販売に苦戦し全体で前期比1.7%の減収となったが、営業利益は前期比9.3%増の増益。
- 円安傾向の定着や石油由来原材料の調達難等の厳しい経済環境の中、グループで培ったノウハウを活かし既投資先の収益力向上に努めるとともに、リスク分散に配慮した積極的な投資を今後も継続。

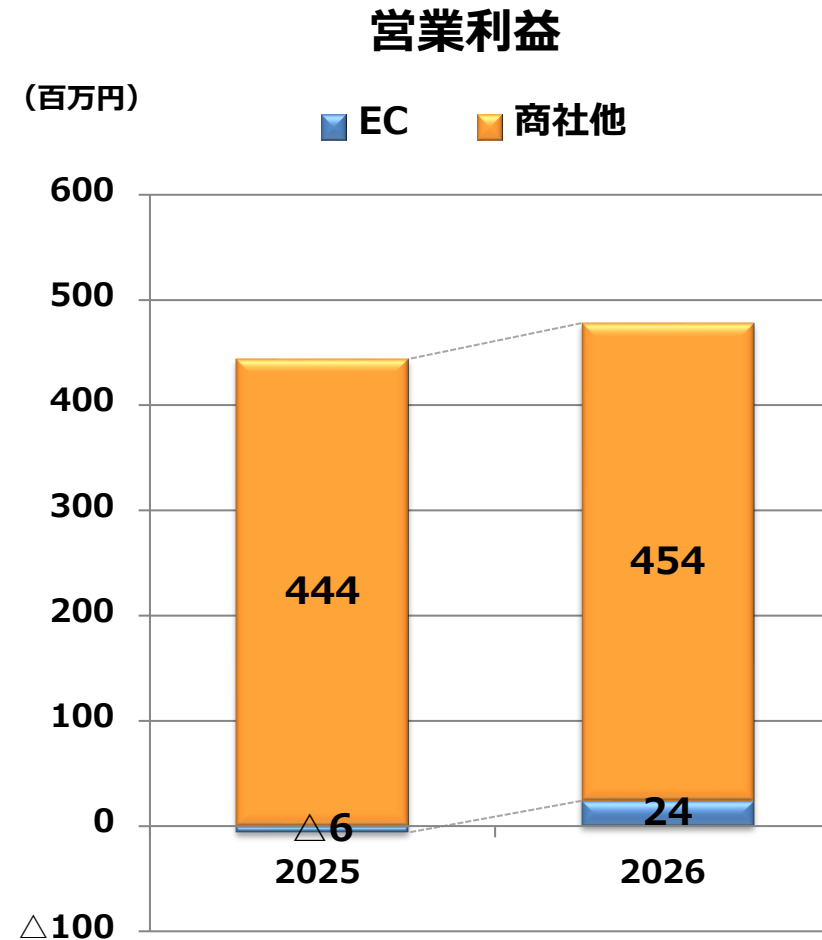
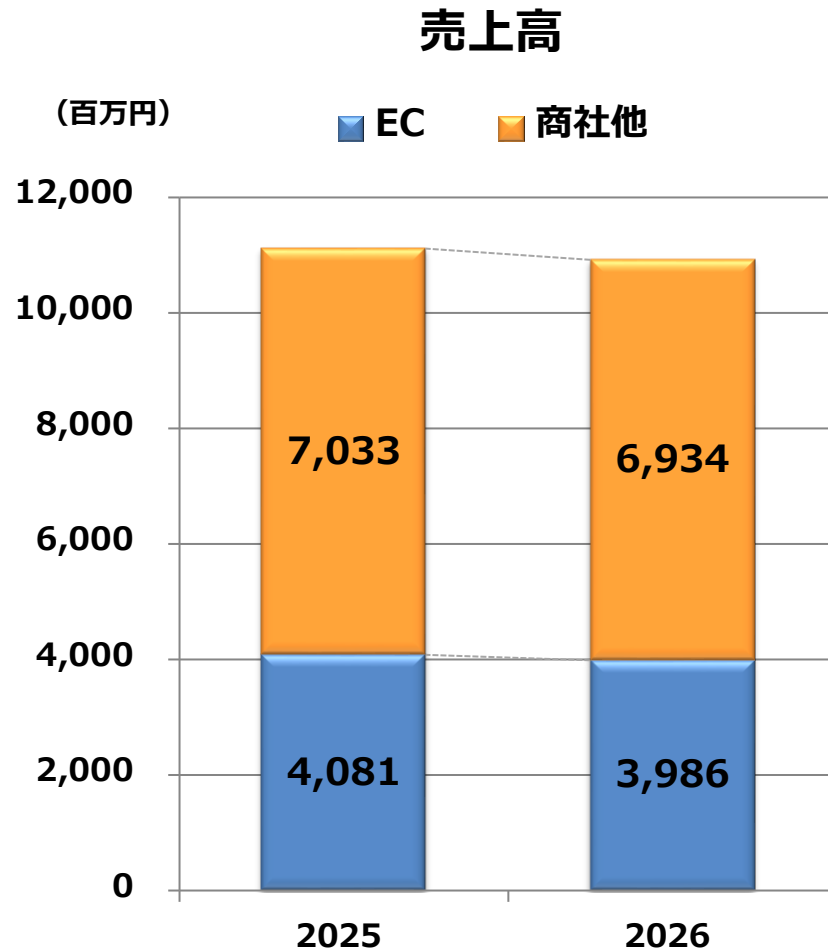
### 売上高


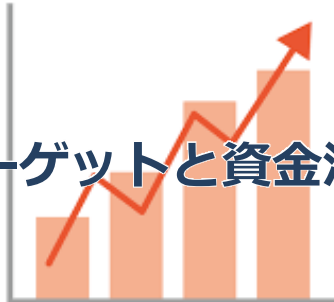




### 営業利益



- EC：物価上昇を起因とする消費マインド低下により売上確保に苦戦したが、在庫管理の徹底と粗利確保に注力した結果、前期比で減収増益となり黒字転換。
- 商社他：売上高は減収となったが、価格交渉による利益の確保に注力した結果、前期比で増益。



<p>1. 基本方針</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニッチ産業への事業承継型M&amp;Aを基軸とし、各事業体の自走とキャッシュ創出を両立。</li> <li>“分散リスク型”投資ポートフォリオにより、安定成長を実現。</li> </ul>
<p>2. 中期ターゲットと資金活用</p> 	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>2026年度</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 80%;"> <p>投資先拡大に備え 人員増員を行い、 借入等で調達した資金を元に投資を実行</p> </div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>2027年度</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 80%;"> <p>「時価総額100億円 相当のセグメント価値」 を実現する成長性 と利益を実現</p> </div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>2028年度</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 80%;"> <p>承継M&amp;Aポート フォリオの価値極大 化へ、投資回収と安 定成長を実証</p> </div> </div> </div>
<p>3. 差別化戦略</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業が独自の競争優位性（独自商流、高回転在庫体制、技術連携体制）を保有。</li> <li>M&amp;A後のPMIを通じてグループとしての統合効果を最大化。</li> </ul>
<p>4. リスクと対応</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>市況変動リスク → 事業分散で吸収</li> <li>EC競争激化 → 直販・在庫回転強化で対応</li> <li>素材高騰・規制対応 → 仕入元連携とエコ素材活用</li> </ul>



## IV. 2027年3月期連結業績予想

## 2027年3月期 連結業績予想

創薬支援事業は、売上高は横這いを予想するも構造改革効果により損益は引き続き大幅な改善を、投資・コンサルティング事業は、既投資先の堅調な推移を予想しており、連結業績予想は増収増益を見込む。

単位：百万円	2027年3月期 (通期業績予想)	2026年3月期 (実績)	増減	
			百万円	(%)
<b>売上高</b>	<b>14,000</b>	<b>13,174</b>	<b>825</b>	<b>6.3</b>
創薬支援事業	2,250	2,258	△8	△0.4
投資・コンサルティング事業	11,750	10,922	827	7.6
本社・連結調整	0	△6	6	-
<b>営業費用</b>	<b>13,740</b>	<b>13,036</b>	<b>703</b>	<b>5.4</b>
創薬支援事業	2,250	2,423	△173	△7.1
投資・コンサルティング事業	11,270	10,442	827	7.9
本社・連結調整	220	170	49	28.9
<b>営業利益</b>	<b>260</b>	<b>137</b>	<b>122</b>	<b>88.5</b>
創薬支援事業	0	△164	164	-
投資・コンサルティング事業	480	479	0	0.1
本社・連結調整	△220	△177	△42	-
<b>経常利益</b>	<b>200</b>	<b>118</b>	<b>82</b>	<b>69.5</b>
<b>当期純利益</b>	<b>150</b>	<b>△77</b>	<b>227</b>	<b>-</b>

なお、次期の配当につきましては、当連結会計年度に計上した構造改革費用等への対応と財務基盤の安定化を優先し、現時点では未定とさせていただきます。当社は、早期の復配を重要な経営課題と認識しており、現在進めております固定資産（神戸研究所）の売却による財務基盤の回復、収益性の改善状況を見極めた上で、改めて公表する予定です。

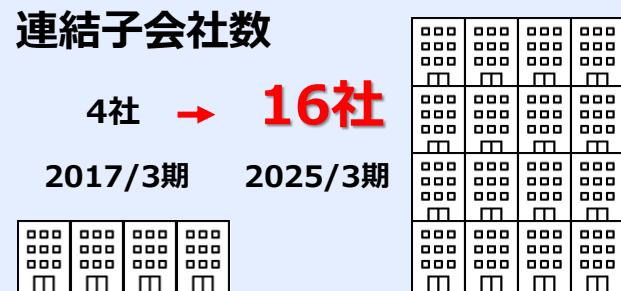
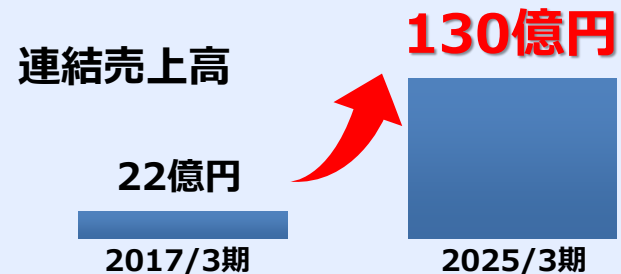


# V. その他

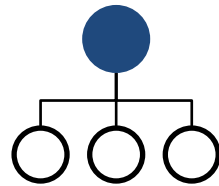
- 事業領域・グループ規模の拡大を経て、ガバナンス体制と収益基盤の整備を推進。
- スタンダード市場移行により、安定した上場市場区分のもと、中長期的な企業価値向上を目指す。

## 成長実績

- M&Aを活用し、創薬支援サービス領域を拡大
- 投資・コンサルティング事業を開始し、収益基盤の拡大を推進



## 持続的成長に向けた経営基盤の整備



急成長に伴い多角化したグループの実情に合わせ、2021年4月に純粋持株会社へ移行。成長の加速から「持続的成長」に比重を置いた経営体制へ。



**ガバナンス体制**  
一定水準の体制整備と実績を蓄積



**事業構造**  
資本効率を意識した事業構造の見直し



**損益構造**  
持続的成長に向けた損益構造の整理

## スタンダード市場での持続的成長へ



2026年2月12日東証スタンダード市場への市場区分変更承認

【東証グロース】→【東証スタンダード】  
(2026年2月19日より)

市場区分変更承認に伴い、「上場維持基準の適合に向けた計画」は撤回

必要な体制整備と実績を踏まえ、安定した上場市場区分のもと、中長期的な企業価値向上を目指す。新たな成長とガバナンスとを両立するステージへ。





～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<https://transgenic-group.co.jp>